



## 大野市教育委員会たより

令和元年11月20日発行 第37号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月12日（火）午後7時～8時40分

場所：富田小学校体育館

対象者：富田地区住民（出席者数20人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- 乾側小が旧蕨生小へ移転し授業を行うことはやむを得ないと思うが、校舎を新しくすることに対してはどうか。富田地区の森目小や蕨生小も富田小と再編を行った。少なくとも、1学年2学級は必要であると思うし、1学級でも20人ぐらいは必要である。そのような人間関係の中で勉強するのがもっとも良いと思っている。また、阪谷小も子どもが減り、厳しい環境だと思うので、富田小と一緒に、尚徳小になると良いと思っている。保護者が子どものことを思い、しっかり考えていくべきである。乾側小の耐震対策に係る報道内容が説明不足であるなら、広報おおので説明をしていくべきではないか。
  - ⇒■保護者が自分の子どもにどのような教育を受けさせたいのかということが大事である。意見交換会を回っていると、子どもや地域のことなどを心配される方がそれぞれおられる中、子どもを中心に考えていかなければと思っている。
    - 乾側小については、平成31年4月に下庄小へ先行再編する旨の要望書が2年前に出され、教育委員会で準備をしていたが、その後、保護者会から要望が取り下げられ再編が進まず、先行再編を希望していた平成31年4月が過ぎてしまった。再編計画によるビジョンがあれば、乾側地区や保護者の方に、乾側小の再編について教育委員会からお願いすることはできる。しかし、現在、再編計画見直しへの取り組みを行っている最中であり、計画がない状態である。今後、乾側地区が先行再編について、再度まとまるのであれば、教育委員会は準備などで動いていきたい。また、今回の対応はあくまで耐震のためであり、児童・教職員の安全を最優先に考えている。
    - ⇒■乾側小の耐震対策では、中古の部材（外壁や屋根など）を利用しリースで校舎を準備していくことを検討しているが、現在は決まっていない。決まったら、広報おおのでお知らせしていきたい。
    - ⇒○乾側地区で意見交換会は開催されたのか。開催している場合、再編についてどんな意見が出ているか。
    - ⇒■開催している。再編に対する意見は、賛否両論いただいている。教育委員会では、なんらかの形で再編をしていく必要があると考えている。
- 富田小は、1学年1学級で20人ぐらいを維持していて、先生の目が行き届く範囲でちょうど良い。慌てて再編をする必要はない。何故、再編を考えているのか。
  - ⇒■再編計画見直しの1つの意見としてお聞きしておきたい。富田小は現在109人で、1学級15人から20人である。
  - ⇒○これから子どもは減っていくかもしれないが、市で人口減少対策をしているのだから悲観的にならなくて良いと思う。富田小は今が適正な人数である。クラブ活動のために再編する必要はない。
  - ⇒■子どもが増えていけば良いが、複式学級になったりしたら考えなければと思っている。
  - ⇒■国の機関である人口問題研究所では、富田地区は現在2,700～2,800人であるが、20年後には1,850人ぐらいになると予測されている。市では、移住定住の施策や観光客が増える仕掛けなどを行っているが、人口が減るのを止めることは難しい状況である。
- 中学校は1学年4クラスが理想だが、最低1学年2クラスは必要である。校数は2つは欲しい。
- 再編は、いずれしないといけないう状況であると多くの方が考えていると思う。その中で、子どもを学校へ送り出す時にバスだけでうまくいくか、登下校で保護者の送迎が前提条件ではないかなどの不安が多々あると思うので、そのカバーをしっかりとしなければならない。
  - ⇒■保護者の一番の不安は登下校である。その他、放課後の子どもの過ごし方などがあり、この不安な点は丁寧に検討していく必要がある。
  - ⇒○スクールバスを利用する場合、低学年と高学年で同じ時間帯に授業が終わることが出来るのかなどを踏まえて運行しないと、単に建前でバスを2便出すだけでは保護者は納得しないと思う。
  - ⇒■富田小のスクールバスは、登校は1便だが、下校は低学年と高学年に分けて時間をずらして運行している。

- ⇒◎下校時、バスに乗車する子どもをちゃんとチェックしているのか。
- ⇒■学校でしっかりチェックしてバスに乗せている。中学校でも帰りのバスが出る時刻までに、部活は終わっている。
- ⇒◎学校単位で部活をするのではなく、市全体で部活をしてはどうか。
- ⇒■すべての部活を学校が抱えられる時代ではない。
- ⇒◎部活を学校単位で行わず、学校のエリアごとに行えば良い。
- ⇒■そのような考え方も1つあると思う。中体連などの大会では、種目によって2つの中学校が合同チームを作って出場したりもしているが、勝ち進んだ場合、上位の大会へ出場できない規定となっている。
- ⇒◎その規定などを構築し直した方が良い。
- ⇒◎勝山市では、バドミントンの指導者が地域におり、その指導者が学校の子どもたちを指導している。地域で育てる部活があれば良いと思う。
- ⇒■大野では、相撲連盟が小中学生対象に相撲教室を開催し、大会に出場している。他にも校外の硬式野球部（大野ボーイズ）などのクラブに所属している場合は、必ずしも学校の部活動に加入しなくても良いとしている中学校もある。しかし、社会体育にすべてを受け入れてもらうことは難しい。仕事をしながら指導してもらっているため、やはり教職員に頼らざるを得ない部分もある。両者がうまく連携していかなければならないと考えている。
- ◎子どもが富田小、尚徳中を卒業した。1学年1学級だったが生徒会や部活動をしっかり出来た。家庭、地域、学校がしっかりタッグを組めば、学校の大きい、小さいは関係ないと思う。再編では、少ない小学校が大きい小学校へ行く必要はない。東西南北4つで小学校を残せば良いと思っている。
- ◎子どもが少なくなることがかなり前から推測できた中で、学校再編に係る国のサポート（助言や指導など）はあったのか。小中学校の再編を同時に決めるのか。再編の決定はどのような手順を考えているか。
  - ⇒■再編計画の見直し（案）は来年度に作っていかねばならないと思っている。組織を作りながら検討していきたいと考えているが、現在は取り組みに対する具体的なものはない。
  - ⇒■学校設置者は市町になっている。よって、学校数など学校をどうしていくかは市町で考えることであり、国の特別な支援はない。
  - ⇒◎再編の中心は子どもだと思うが、先生が働きやすく、教えやすいという環境も大事である。また、地域で子どもを育てているということも考慮して欲しい。
- ◎小中一貫校で、3つぐらいにするという発想はないのか。
  - ⇒■再編で教育の質がどのように高められるかであり、小中一貫校もその方法の1つとして考えられると思う。
- ◎すでに再編の取り組みは、以前から行っている。再編は早くしていかないといけない。地区の子どもの出生数はここ数年、本当に少ない。人口減少は進んでいる。
  - ⇒■かけるべき時間はかけなければと思うが、出来る限りスピード感を持って、再編を進めていきたい。
  - ⇒◎再編をしなければならない学校から徐々にやっていくべきと思う。
- ◎子どもは地域で育て、みんなで協力して育てるのが一番だと思う。勝山市は、未だに各地域に小学校1校ある。地域の中で学校がいろいろな行事をしている。我が子が複式でのびのび育ち、先生の目がすごく届いていた。低学年の子を良く世話をするとか、忘れ物をしない、校庭のゴミを拾うなどそのようなことをすごく先生が大切にしてくれた。小学校ではこういうことが大切だと思う。小さい子どもへの教育にはもっとお金をかけて欲しい。
  - ⇒■大野でもふるさと教育に力を入れている。富田小では、内川での掃除や真名川クラブとの交流、夏祭りの参加、蕨生里神楽の体験などを家庭、地域と連携しながら行っている。
- ◎再編は絶対必要と思うが、数合わせの再編はやめて欲しい。各地区の地域性を考慮しながら再編を進めて欲しい。
  - ⇒■小学校は地域との結びつきが大きいと思う。
- ◎再編計画での小学校2校の校区割はどうなっているのか。
  - ⇒■中学校校区を単位として、開成中・上庄中・和泉中の校区と、陽明中・尚徳中の校区の2つに分ける計画であった。
- ◎子どもの視力はかなり低下しているのか。
  - ⇒■福井県全体で視力と虫歯の治癒率が低い状況となっている。大野の小中学校では、朝にビジョントレーニング（目を休めるトレーニング）を取り入れ、視力低下を防ぐ取り組みをしている。虫歯については6月検診の他に、9月頃に虫歯の発生率が高い1年生と4年生を対象に検診を行っている。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本たよりは、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

